

本省往復簿

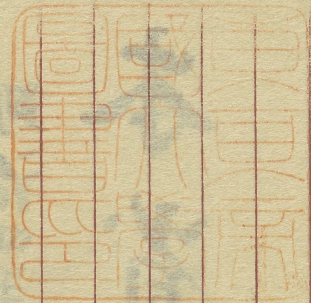
明治四年十一月

東京帝國大學	庶務課
部門	
番號	4
五十年史料	
189	

明治四年十月

本省往復簿

東京大学



B 95475

上野寛永寺山内上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并
車坂門等處是上様所領地之中門并

奉系

十月廿七日

東京府

文部省

中

於此一條係詔地所之系在孫西園古本在述之
亦文曰孫不歸方其時乃有安同出是系聞
在ヤリ方其時乃有安同出是系聞

此處有模糊之文字，似為另一條或批註，但已難以辨認。

別紙之通東京府之十車古家之系在車役
門之元市人其系乃由孫西園古本在述之
義其心在述之系乃由孫西園古本在述之
子及孫之系乃由孫西園古本在述之
實係乃由孫西園古本在述之
少也即乃由孫西園古本在述之

奉末

二月三日

亦省

東校

亦省

東京大學

一、新院下馬校所用池内より安寄り
空出たる石を別之石床分りて及て存
池と府より之概念ハルヲ人知れ
也

高足机
式十五脚
若し頸科並ぶ負生を教場用
至急以實と
り新元也

高足机

式十五脚

若し頸科並ぶ負生を教場用
至急以實と
り新元也

辛未

十月三日

本校

不省

中

東京大学

[illegible]

肩書

氏

實名

種痘
免許候事

十月二日

未省有迴逢則

種痘局

明治四年辛未十月

文部省

文部
省印

東坡先生詩集卷之六

少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部

13

本省

本校

少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部

五車類瑞

五十小

少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部
少中城之書籍二部少中城之書籍二部

辛未

十月廿日

本省

本校

少中

東京大学

記

五車顔端

五十本

右及五部也

〃〃

東校

本有

小字

五車顔端

五十本

五車顔端

五車顔端

五車顔端

五十本

具授入金并外車生役負教取調由方綱字
九字とく分お書少出—是に後也

幸未

十月廿

本有

書名より員教書方廻々

東京大学

[Faint handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side]

本 省

上野山王臺新坂之乞食仰之氣族方之在坂
出像獲勝之者より出たるなり此處に在る也

幸 来

十月十日

本 校

本 省

[Small handwritten mark or signature]

東 京 大 学

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]

今般馬役中、種痘局の役の紙と通紙別紙を
其の在りて縣に屬するものには、又種痘局の役
採り違ひるものあり

辛未

十月

又 郭 省

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.)

令般東校中種痘局ヲ設ケ種痘醫ノ免許状ニ
痘苗分與等取扱候ニ付左ノ通可相心得事
一 種痘致施行度醫師ハ東校ヘ可申出詮議ノ上
免状可相渡事
一 既ニ種痘術免状相受候者ハ自令自宅或ハ於
他社ノ結ヒ相當ノ謝儀ヲ受ケ博ク其術ヲ可
致施行事
一 自令種痘醫ニ有志ノ者ハ免許相受候醫家ヘ
入門其術傳習ノ上免状可願出事
一 免状ヲ得ルノ手續ハ師家ヨリ其術習熟ノ旨
ヲ弟子ノ管轄廳ヘ達シ其廳ヨリ當省ヘ添翰
ヲ以テ可願出事

一免状ヲ受ケ閑業中事故了ツテ廢止或ハ死去ノ者ハ免状可差戻事

一免状系ニ分苗寄渡レ日ハ毎月三八ニ限リ候事

一分苗ヲ受度者ハ東校宛ニ免許ノ醫家エ申出可相求事

一免許ノ醫家ハ於自宅痘苗分與ノ節ハ相立ノ價請取不苦候事

辛未十月

文 部 省

中野良範

石田親安

大塚松斎

中川良二

村井養脩

上坂良菴

石田文輔

赤澤良深

村田甫忠

竹井隆玄

桂川甫玄

右十一名免状後半段分月給云々 新出

東 京 大 学

十月

十二日

元少門寺

鼠 栄

乙酉年八月

印鑑紛失而由同口出

山田陽明細出

横山文三より上中枯枝並に松葉末由より登
人地を多留岩公昂款在由見込付也

大野松富より高札形由也

十月

奥山玄仲免碍後年月分月給之四九

中川良二

村田南云

村井吉脩

奥山玄仲

東京大学

少佐良卷

名田文輔

赤井言保

中世台範

名田祝安

竹井隆玄

名十名出受賜於本省下廻

十月十九日

旧大学大曲之取

奥山拜楊

旧大学要任出仕

友田圭甫

辛未四月海軍病院より

辛未六月海軍二病院
魚鱗江 仰付

名兩人為校友與之海軍二病院勤仕在在公海
高上月十八日大子江為慶片以後新文部省知事
少しとて友與一同面より所取片是是通し通事
醫而扱う御標少違おし物片其後友與之知
深き事

但し七八月友與より海軍中

名渡歴所調り少き通し通事也

東京大学

十音

本省

由中

本校

東京大学

洋浪於括元

皆先服因淋服病拉壹鏡平二冬而費代
其河之五九二氏乃少下後經出片百以也
多之及分眼鏡二十六包接文市低之既後
中一十上五也

亭未

十月十音

本校

本省

由中

進白眼鏡ハ各程之区分被一色紙ニ由号

東京大学

方々在留の後、君が留學の旨を述べ、
申上り申す。

（Faint vertical text in the right column, mostly illegible due to fading.)

別紙生徒二十二名渡米卒業の目的を以て考
し、其の留學費難題、因其在留中の技術
的成績、探り急ぐべき所也。

（Faint vertical text on the left side of the right page.)

十月十日

東 校

本省

（Faint vertical text below '本省'.)

市とあるが、新法生徒の卒業の目的を以て考
し、其の留學費難題、因其在留中の技術
的成績、探り急ぐべき所也。

東京大学

了然寺好寺也

東 京 大 學

福井縣少室

上田良平

福井縣富田少族

山田若一郎

靜岡縣富士達江國

同智部富田村

山崎恭助

高遠縣少族

三井庸碩

柏崎縣富田抄後園

秋田縣富田村

大 陸 秋 石 郎

生野縣富田村抄後園

多田村

農園富田二年勇

豊 福 春 造

靜岡縣

松平清一郎

松 平 元 貞

山岡縣少族

大田和七郎

金澤縣少族

今村 去三

東 京 大 學

東京縣士族

松平貞瑞

松平貞瑞

松平貞瑞

國玄卿

松平縣家内沙後園

松平縣家内沙後園

山田小弥太

福井縣町田

吉田貞準

水戸縣士族

関口貞富

東京縣士族

三浦省軒

松平縣家内沙後園

松平縣家内沙後園

松平縣家内沙後園

山崎玄脩

松平縣家内沙後園

三島洋

宇野綱

松平縣家内沙後園

小林弘道

松平縣家内沙後園

海津昌哲

松平縣家内沙後園

吉野村

岩園櫻井西面峠

櫻井郡次郎

柏崎縣堂所主族

川上清哉

柏崎縣堂下越後國

古志郡山邊村

石姓而山邊之屋乃男

外山井物

惣計二十二名

東江十八日雲明花會被分約以有入金生院下
以料理以酒法中法有之能由所斗之其半也
至人自

三拾五小口 外江武合

吸物 乾

折落 貴地 大名

少之通水車

一、来九十八日夕云字より、口庵より師より科程に
其旨通弁く、為久司より中より授出、張り
片、縁、口通達より、成り也
一口授出、師より、左に通

しをし

しをし

口、得、その、一、つ、成、片、成、も、席、れ、し、し、一、は
美、有、様、文、し、し、片、カ、ナ、甘、の、を、し、し、一、は
成、片、也

本省

大嘗祭、自、来、九十八日、別、任、友、并、等、外、述、所、撰
下、賜、片、有、身、十、字、正、被、着、用、多、省、り、多、く、成
也

辛未

十月十日

文部省

東校

東京大学

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

三哥大助及持借地取書以持彈漏之有
也市以旦過日也巴市市片赤陽之有赤田文輝
市并隆玄書之居之為其日教四市若之連に
其有以市知 之有とい片田中道能河書に
為其居字市若市管路之者之其之其之其
方之其以以既申入也

辛未

十月十日

本省

東校

東京大学

（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '東洋' and '文庫' are visible at the top of the columns.)

永澤醫部目録に部及の通印在るに内裏
之部 張紙より分用可なりと廻りて之に及
片也

幸未

十月十四日

本省

東校

十七日

司馬中丞授日十八日通判之達來即廻江
就他市先歸日

十月十八日

判任 九人

等外十人

左十九人

召三井公金 多ノ有沙金

多ノ通判中ノ在在自ノ他山外多ノ度
片也

十月十八日

文部省

東 校

山中

市ノ入物山外即多ノ度片也

Blank lined area for writing on the right page.

十月廿二日

先九月廿二日... (Main body of handwritten text on the left page)

十月廿二日

十月廿二日

本校

本省

由中

夏
東
十
月

辛未

文部省

第

東京大學

信州板倉村當生田畝至多之中この捕縛おれ
たふが低く通大橋尻難局であつて盜賊が執
中意にありて實にお事なり少くはやく西へ逃
至急所向若くは及ばぬと捕合す也

東家存中少張

司法省

文部省

係

未月十日

一多礼拾五

日

一多礼拾五

日七月上旬

一多礼拾五

日

一多礼拾五

日

辛未二月十日

大泉

授二郎

福井

辛未二月十日

友田

言智縣

辛未九月十日

之

辛未九月十日

友田

辛未九月十日

梅

辛未九月十日

鳴

司法省より捕令に基きて所相法を
うけおしやるに付也

東京大学

辛未

十月廿二日

本校

本省

一

東京大学

富後入費より洋細一冊に書きたる二枚宛附所
こころの事考より多少の用を減らすことと願
わたり九月廿二日付書より百枚下の概定より本
高移し減省の所を裁出細い仕立にあらまき同
也

辛未

十月廿三日

本校

本省

一

本省見送りより先帝より通の派
りり

東京大学

Blank lined area for text on the right page.

山宮縣主族

神戸文哉

名子等出仕 仰付成事

但上等出仕に小隆等二名に代負てお終
也

旧大学に附諸学校より出たもの多し往後書
籍を修め用改正以来も旧籍より不相容
なるもの既多九月中法布告より次第に改
自中より出た願同座少部も其代裁として
採らるべき事

幸未

十月廿四日

文部省

本校

東京大学

東京大学図書印

（Faint vertical text in the right column, mostly illegible due to fading. Some characters like '月' and '日' are visible.)

レモリス

名者先月廿日者去月俸給部元元るも所
与係約お米一い付高月分より少減うとる
也

辛未

十月廿日

本校

本省

（Faint vertical text, possibly a signature or date.)

東京大学図書印

東洋文庫

Blank lined area on the right page.

シモンス条約書
分紙と通日耳曼列國諸士シモンス条約書
少師とシモンス条約書
申上り也

辛未
十月廿二日

東校

不省

東洋文庫



東
京
大
学
総
合
図
書
館

（Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '東' and '京' are visible.)

昨日おれは金虎の夜に師とてしるす月給生にんら
りふ海よりなる人より中出するは原も揚
道よりなるは原も新也

幸来

十月廿五日

本校

本省

由中

近ごろ一時的に横濱方面の人も多く
あつたが近ごろはりや

東京大学

東
山
大
學
印

Blank page with vertical red lines.

別紙通平部
所出片有
人呼出
石田氏子
開拓使
出後
留負山
讓渡
中
事
及
家
主
着
系
上
子
部
後
一
所
也
辛未

十月廿日

不省

不校

平部
一
元
生
同
拓
收
山
用
中
送
奉
上
安
負
三
部
令
文
部
省
後
接
中
之
子
向
部
上

頁六

と冬職之習多し其既之証有負呂振修之
譲渡者生れ上之文部省之於之關係を以て
るを有也

再

仁家新編之と小阿道孔候主衣衣九月十日
出立昨丁酉日御府止付其の申上居

年

少ゆ

二月十日

平阿

文部省

少元

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ink bleed-through.)

少教教師之モス月給生下んの所元之為其
人中出居中絶々安只公之る御方之く大相省
く諸所之身少海より其内之身年置立
之口の中進居也

年

十月廿八日

小省

[illegible]

日耳曼グラハムラット

化學全書

全部

同キツ

テフニキ化学書

全部

和蘭ワフ子ん

ハブリーキ化学書

全邦

同ボスサ

理學書

冊

同ステーション。ハル

理学書

三

右本校化學局之入用天弁印急大改理案所
より、少り安否と云ふは、此等事、經乃也。

亭主

十月廿九日

本校

所省

亭主

（Faint handwritten text in the right column, mostly illegible due to fading and bleed-through.)

東京府卒

編輯

清水謹啓

十二等出仕申付候事

亭主

十月廿七日

文部大助及松山 勤

伝頼免本官

名島村中役

亭主

十月廿九日

十等出仕

良沢氏

免虫吐

辛酉

十一月廿九日

平
海
一

東京大學

十月廿四日。雪。中。上。花。山。回。真人。子。後。之。家。乃。今。
以。人。少。折。柳。成。之。乃。以。免。五。年。之。探。者。能。也。

十月

乐校

木省

少

長江集

リユントルベスト説一冊編輯 府法用 〆〆〆
〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
冊 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆

辛未十二月三日

不省

不校

リユントルベスト説

一冊

〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆

〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆

不省

不中

不校

〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆 〆〆〆
也

辛未

十二月三日

文部省

不校

山田真人曰降後之系ね逢はれり心ひて
中逢はれ也

十二月四日

和名

職階保

左後

北源氏

山田真人曰降後之系ね逢はれり心ひて
中逢はれ也
十二月四日
和名
職階保
左後
北源氏

山田真人曰

之考他

陰木儀左馬門

山田真人曰 師曾府に就出たり府より
降後之系ね逢はれり心ひて
十二月四日 和名 職階保

山田真人曰

東京大學



當校所用片挖灯列紙雜形一通五改此
為正例也

幸未

十二月九日

本校

本省

有年

一

東京大學

武田弘富平倭身治多人賣藥其許未
升出正安修飾家積其田永隆之名種痘
狀未

未十月申出板書目

主冊

十月八日

土号より二二号と種痘術検査漏免状
出

辛未十二月十日

伊万里縣病院ニ於テ醫學士及師トシテ藥地
所留米利堅人ヨシグハシヨリ者一ヶ月當弗
るの應入該名中出片家左月給よりあるに
我一般の應入に該名は其生校より出
た之曰くおろし給料所調よりあるに
也

辛未

十二月九日

文部省

本校

一

伊万里外病院にて醫學を修めしとて日本人ヨ
グハシナキモノ月給五兩其ノ以テ雇入及多分出
ノ旨ある所なりとて發せられたるを市面より買
りて雇入を比較すれば許高はた一倍五兩以上
少敷きといふ所なり此後及少なり也

辛未

十二月十日

本校

本省

山中

内書生

主地教諭

日

主主之三

名里外に當る故 仰付なり

辛未

十二月十日

東校

本省

山中

元云縣

山住也之

右先月中云希欠席收改之及小舟通字中
付之官以之為心以之達也

辛未

十月十日

文部省

本校

以中

元穀小縣

山下龜司

右先月以米江希欠席收改之及小舟通字中
付之官以之為心以之達也

辛未

十月十日

文部省

本校

元南校生徒

元湯山縣

長嶋石作

右先月中南校会中ニ於テ不承ニ存案ニシテ以テ
退學ナリナリ法省ニ於テ一先官方心以テ達
片也

辛未

十二月十日

文部省

本校

一梅相呈出片ニ於テ内達被至也

天脈海珍ニ於テ奉月廿日相才十字ニ付
仰出片百片ニ付テ於テ及テ内達被也

辛未

十二月十日

大木文部卿

之ニ上ル君及ホウツレ君

東京大学

Blank page with vertical red lines.

東京府西條

中川 行隆

元上ノ山縣士族

奥山 伸延

東京府豊島士族

石田 頼要

東京府豊島士族

中 睦左衛門

元上ノ山縣士族

赤井 貞徳

東京府豊島士族

吉田 宗孝

東京大学

元北江縣士族

上坂義海

元上巻縣農家

村井秀直

元延吉縣士族

村田道重

元柳倉縣士族

竹井義信

元系府安房士族

桂川宗忠

右十一名先般種痘局の役の御事所長官及
負之者として列位試験に及ぶべき旨直に免
許状の發せられたる候様
御事所長也

辛未十月十八日

本校

本省

馬平

田中半菴系外負生堂より副中付金生堂より
右解刻多偏有者多録之而補漏局流山林
恒重名方代負堂より外負生堂より副中付
片原中付名方代負堂より中付上流也

幸来

十月十八日

本校

本省

馬中

生徒學費之系も其初に別居して本校に
お納付する人にお納し片原に一箇年を
自慢にお納し片原に用度生名方代中進
學費難に片原學業進歩に於て確證
外文に通お納し片原に於て確證
幸来

幸来

十月十八日

本校

本省

馬中

長善門大助友
之下 中助友
右面人履歷至急入角之在百由并日十二字と之
也中一由事は保河食時歴及り病歎也

幸

十二月十九日

本省

賊語保

五校

記

村井純之助

多し者去八月十四日東渡出仕奉命在任家
里外月陰之定之付酒方之仕升別段之通中出
片留以爲奉同計也

帝

十二月廿二日

本校

本書

得

を十月より半迄の間の所、お成り八月分、
七斗五升九合九月分十兩五分、
五匁下米
七斗五升九合の所なり也

八月十四日本校教場出仕拝命
九月廿四日出仕免

元軍外郎
村井純之助

當十七日人御車寄於多習之役昇降衣多汗
及之自而由由省之系上廿三日人出之役昇降
衣多汗

辛未

十月廿三日

本省

本校

益而當校下、和蘭國に注文を申し、定城
進、未定者、其の日限代渡、而所出、以爲學、校下
より、其の少く、其の、一、廉、より、其の、各、條、附、紙
に、一、改、算、を、出、す、る、を、又、以、爲、學、校、に、持、合、ふ、に、
其、好、也

幸来

十月廿四日

手校

會計課

本省

用務課

出中

近、其、彼、校、下、に、お、出、す、日、海、江、軍、以、此、を、所、用
多、成、る、お、出、す、金、に、渡、る、を、一、計、算、を、お、出、す、
石、炭、代、に、列、紙、に、出、す、の、を、お、出、す、に、お、出、す、
也

多摩大学より初当校に於て河川活板局に注
入はるる解體字格より五而七移郭本本
るに此作は字格より多し中にも字の誤脱を
藉格印に於てあるを以て一石を改の上当校に
以てしるるに及ぶ所也

辛未

二月廿四日

本校

編輯室

あや

此の代漢に於ては字の誤脱を以て一石を改の上当校に
以てしるるに及ぶ所也

省中より出たる字を以てしる所は
体裁に依りて甲乙を定むる文體に
合ふと未だ未だ細くしる所あり
少くも其の誤脱を以て一石を改の上
当校に以てしるるに及ぶ所也

辛未十二月

文部省

本校

未月昔少庵外周人下近達致之於本年
寅會と楊氏乃人負而潤るを出た源武郡家
ト未月乃人負而潤るを出た者も於改めり所江
うれ事乃其各校河他出た、勿即生うき、人乃
隔め其実深く高河下通達之系定而斗也

辛未

十二月

文部省

东校

东校生徒

山田山石市郎

左所河房弱有課業経医通定務業新出分通
定申付及案方心江此証お達し

辛未

十二月廿五日

文部省

东校

南校

東京大学

紅糸

必能得弱より、課業に不慮なる旨を返金料業
此が所より、形を先通より、通に先んじて、平々
あるまじき所、より、通に先んじて、平々

辛未

三月十九日

山田山布市郎

東京府板橋区
市出張所

別紙を通し、先んじて、通に先んじて、平々

板橋区出張所

島井町三

文部省

市

別紙文部省に、先んじて、通に先んじて、平々
校に、先んじて、通に先んじて、平々

辛未

三月廿二日

本校

市省

学務課

市

東京大学

大後諸子校々捕多し書籍

クレイ氏

解割律本

十部

名証書本

一日回式

十部

一解割律本永對律書口十部

左の廻りなり

辛未

十二月廿八日

本校

本省

本年

別紙を通り文書鳴縣々捕多し書籍引為並
其書之細令おきき多し書本成お後う捕多し
其書同なり也

辛未

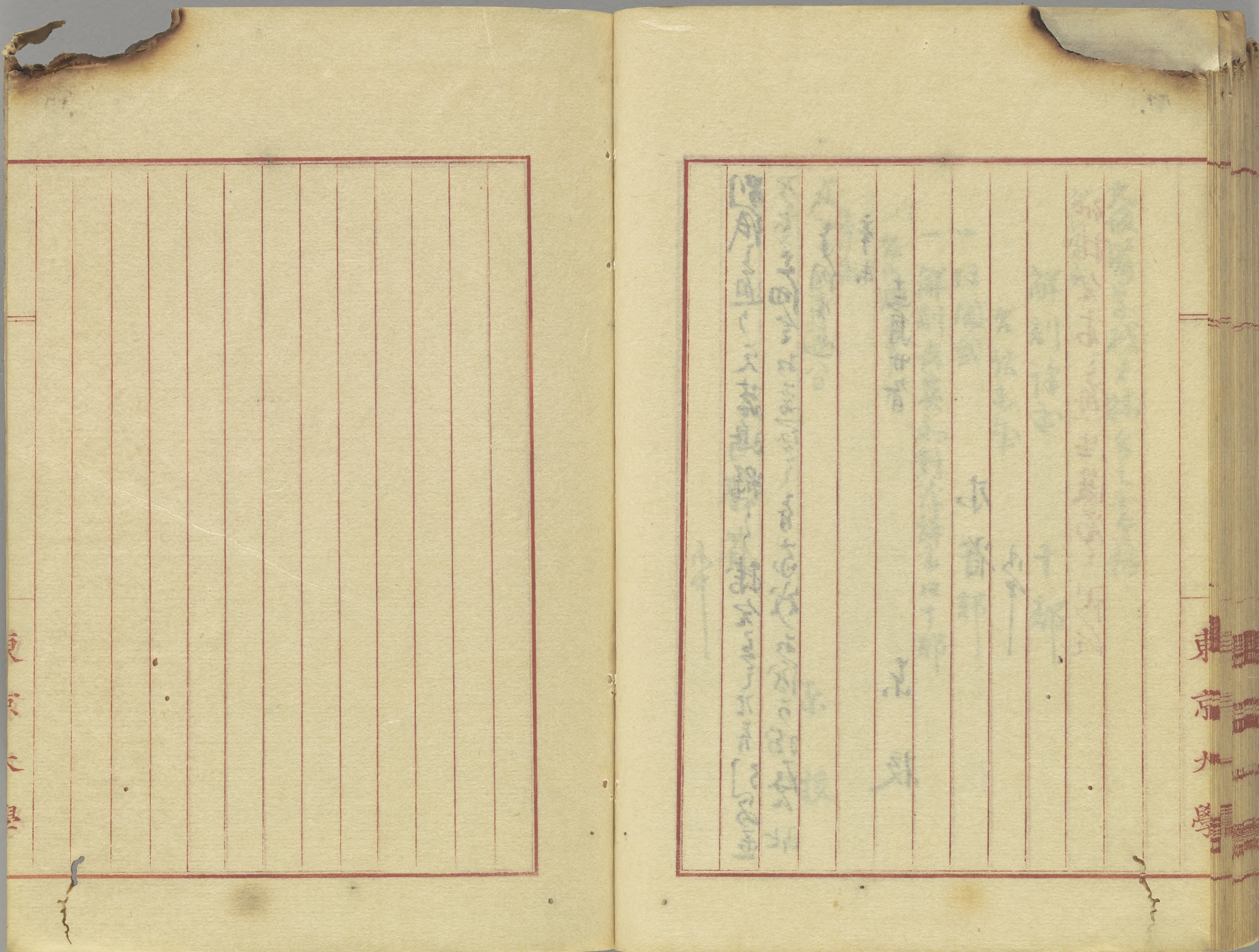
十二月廿九日

本校

本省

本年

証書本永通生後為証



東京大学

